

アーティスティックスイミング(AS)の世界選手権(7月・韓国)の日本代表に、京都踏水会出身の立命館高3年、熊谷日奈多(井村ク、京都市東山区)が抜てきされ、4月に東京で開催されたジャパン・オープンで代表デビューを果たした。代表11人の中で2人だけの高校生の一人。「学ぶことが多かった。練習から力を出し切って試合でいい演技ができるようになりたい」。貴重な経験を胸に来年の東京五輪での代表入りを目指す。



京都踏水会出身 立命館高3年

ジャパン・オープンで堂々



「まさか選ばれるとは思っていませんでした。井村先生(代表ヘッドコーチ)から『あなたのリフトが必要』と言われた時はうれしかったです。身長168センチ。幼い頃から近やつと競泳練習の設定タイムに

18歳熊谷 AS代表初舞台



日本代表として初めて国際大会に出場し、フリーコンビネーションで奮闘した熊谷(手前中央)。その右は乾—東京辰巳国際水泳場

7月世界選手権へ「基本の技術磨く」

「磨いてきた得意の立ち泳ぎで、見せ場であるリフトの土台を担う。代表では井村ヘッドコーチの厳しい練習に食らいつく日々。『最終的に、基本の技術磨く』という。代表には京都踏水会出身の先輩である福村寿華(鳥羽高—近天出)もあり、『とても心強い』と語る。エース乾友紀子(近江兄弟社高—立命大出)らの手の動きなどを間近に見ながら『自分の中に取り入れようと頑張っている』と語る。

ジャパン・オープンでは非五輪種目の2種目に出場し、いずれも優勝した。それでもロシアや中国など強豪国の演技に『海外の選手は身長も高くて脚も長い。その分、私たちは大きく見せないと勝てない』と思った。海外の審判が多い国際大会独特の雰囲気も経験した。

東京五輪で実施されるのはチームとデュエットのみ。夢の大舞台に向け、まずはチームでのメンバー入りをを目指す。18歳のホープは『一番足りないのは技術。倒立で真っすぐ立つ時の高さとかが足りない。基礎的な技術を上げていきたい』と力を込める。

(田中俊太郎)

ジャパンオープンでの経験を胸に、世界選手権に照準を合わせる熊谷(中央)—撮影・佐伯友章